県政できごと ア・ラ・カ・ル・ト

à la carte

こんなことがありました

à la carte 1 山形の魅力を国内外に発信！

山形ブランド特命大使会議（2月6日 山形市）

山形の魅力をまるごと国内外に発信するため、ものづくり、観光や文化など様々な分野で活躍し、高い発信力を持つ「山形ブランド特命大使」が一堂に会し、会議を行いました。県が取組みを進めている県産品プロモーションの効果的な手法やアイデアなどについて意見や提言をいただくなど、山形の魅力発信と、「山形ブランド」の普及向上に向けた意見交換を行いました。今後は、いただいた意見を参考にしながら積極的に情報発信を行っていきます。

à la carte 2 オリンピック・パラリンピックへつなぐ

山形県スポーツ賞授賞式（2月23日 山形市）

国内外の競技スポーツで優秀な成績を収めた方や、生涯スポーツの振興に寄与した指導者、団体などをたたえる山形県スポーツ賞が、111名８団体に授与されました。吉村知事は、「本県の選手が全国、さらに世界の舞台で活躍し、元気な山形・スポーツ県山形を力強く発信することは、県勢発展の活力源となる。」と激励しました。東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、本県選手のさらなる活躍と本県スポーツの競技力向上が期待されます。

à la carte 3 優れた技能で本県のモノづくりを発展！

卓越技能者等知事表彰式（3月8日 山形市）

優れた技能を持つ方や、職業能力開発、技能競技大会で活躍された方24名10団体への表彰式と、高校在学中に技能検定２級に合格し、県内事業所に就職した12名に対する若者技能振興奨励賞授与式を行いました。吉村知事は、「『ものづくり山形』にふさわしい技能を高め、また、優れた指導者として技能の継承・振興、技能者の育成に活躍されたことに心より敬意を表する。今後とも本県産業の発展の一翼を担っていただきたい。」と受賞者をたたえました。

à la carte 4 J1復帰へ！ホーム開幕戦

モンテディオ山形 VS FC町田ゼルビア（3月17日 天童市）

２月に開幕したＪ２リーグ戦。第４節の相手はＦＣ町田ゼルビアでした。青空の下で行われたスタンドには、今季ホーム開幕戦を待ちわびていた大勢のサポーターが駆けつけました。大きな声援を受けて選手たちは奮闘し、一度は逆転に成功しましたが、終了間際に同点ゴールを許し、２－２で引き分けました。42節まで続く長い戦いは始まったばかりです。県民の皆さん、スタジアムに足を運び、Ｊ１復帰に向けて熱い声援を送りましょう。

©MONTEDIO YAMAGATA

à la carte 5 6次産業化の新たな支援がスタート

「食品加工支援ラボ」オープニングセレモニー（3月27日 山形市）

県農業総合研究センターに「食品加工支援ラボ」が完成し、記念式典を開催しました。農業者や食品製造業者の方などが、新商品開発のための試作や、技術習得のための研修などに活用できます。式典では、吉村知事が「施設を活用し『山形らしい』商品開発が促進され、本県を訪れる国内外の観光客へのPRにつながるなど、本県農産物の魅力拡大に大いに期待している。」とあいさつしました。施設の活用を通し、6次産業化をさらに推進します。

にっこり知事室！

日本一 美食・美酒県やまがた

県外や外国の方から、「山形にはおいしいものがあふれている」とよく言われます。２月の国連世界観光会議でも、参加された皆さんが絶賛されていました。本県の食べ物やお酒がおいしいのは何故でしょうか？私は恵まれた自然環境に加え、豊かな精神文化や何事にも真摯に向き合う県民性に要因があると考えています。豊富な伝統野菜の継承、素材を生かした料理法や漬物、研究熱心な酒蔵やワイナリーなどが、それを支えています。

一昨年、ワインのボルドーやシャンペン、ウイスキーのスコッチのように、「日本酒の山形」と清酒の地理的表示を指定していただきました。県全体の指定は、全国で本県だけです。また、今月、世界規模の品評会、ＩＷＣ「ＳＡＫＥ部門」の審査会が東北で初めて本県で開催されますが、これらは、本県の日本酒のおいしさの証です。

外国人が日本へ旅行する目的の一位は、食だそうです。近年、欧米では、その土地ならではの食などを楽しむ「ガストロノミーツーリズム」が盛んです。山形が「美食・美酒県」であることに誇りを持ってＰＲし、国内外の観光誘客につなげていきたいと思います。

山形県知事 吉村美栄子

日本一美酒県 山形

- 都道府県で初めて国税庁の地理的表示（ＧＩ）の指定
- ＩＷＣ「ＳＡＫＥ部門」金メダル受賞数 4年連続 第１位
- 全米日本酒歓評金金賞受賞数 10年連続 第１位
- 地酒人気銘柄ランキング（楽天フルキット調べ） 12年連続 第１位